

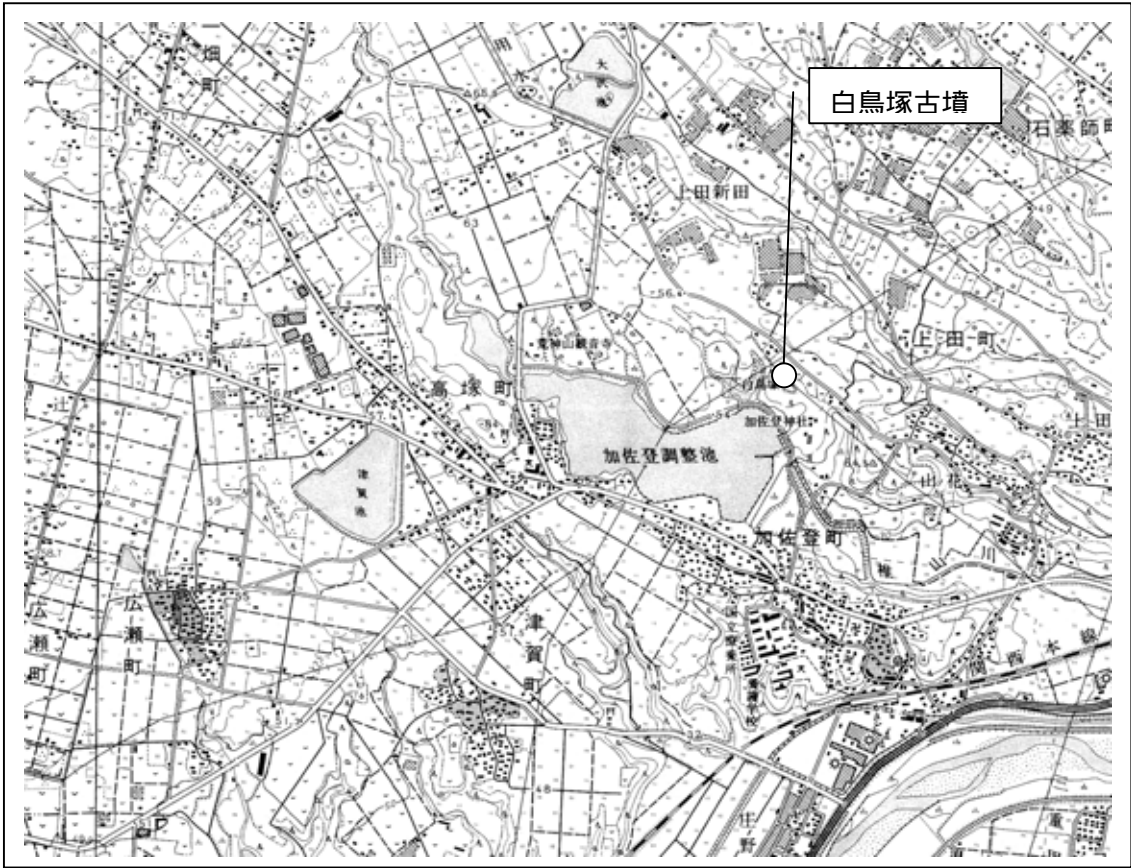
# 県史跡白鳥塚古墳（1号墳）

## 第2次発掘調査現地説明会資料

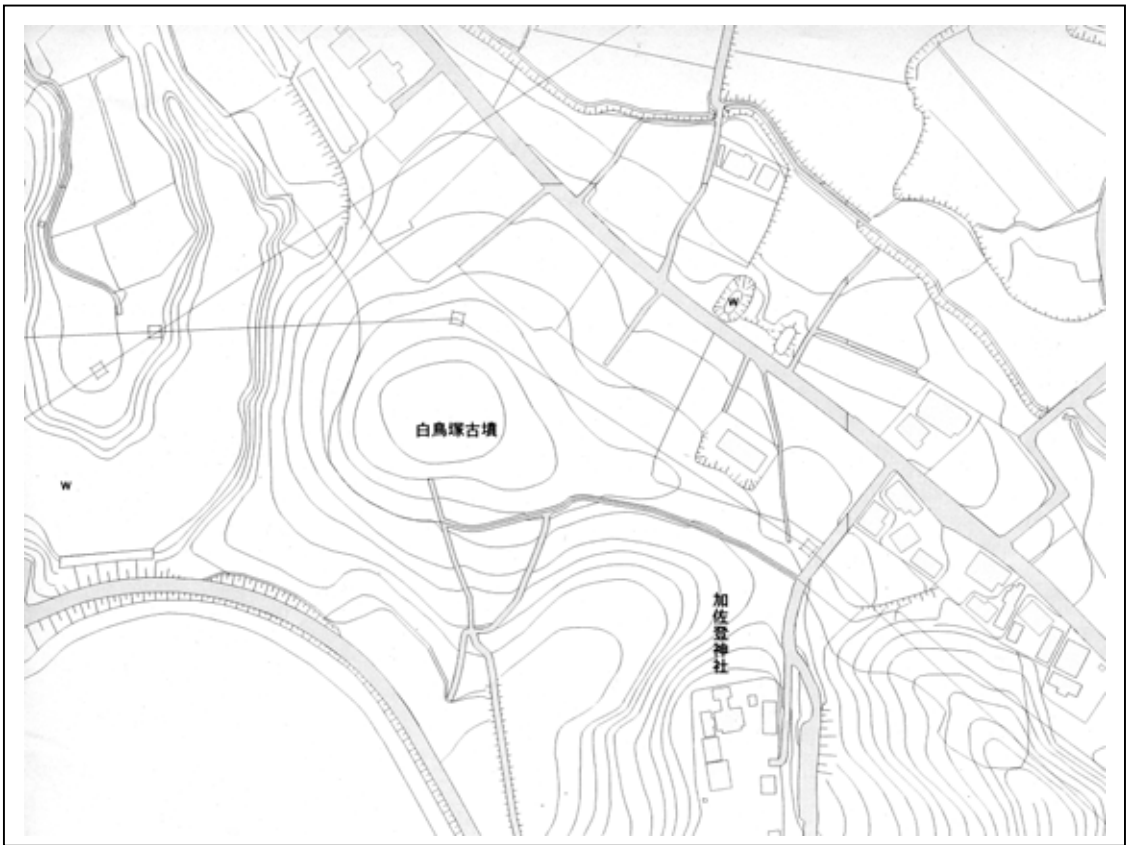
平成17年7月30日（土）

日 時	平成17年7月30日（土） 午後1時～
所在地	鈴鹿市石薬師町地内
事業主体	鈴鹿市考古博物館
調査目的	白鳥塚古墳の範囲確認のための学術調査
調査期間	平成17年4月15日～平成17年7月31日(予定)
調査面積	250㎡（予定）
調査主体	鈴鹿市考古博物館

問い合わせ先  
鈴鹿市考古博物館  
担当：小倉・林  
TEL0593-74-1994



白鳥塚古墳周辺地形図（国土地理院 1 : 2 5 0 0 0 から抜粋）



白鳥塚古墳位置図（S = 1 : 2500）

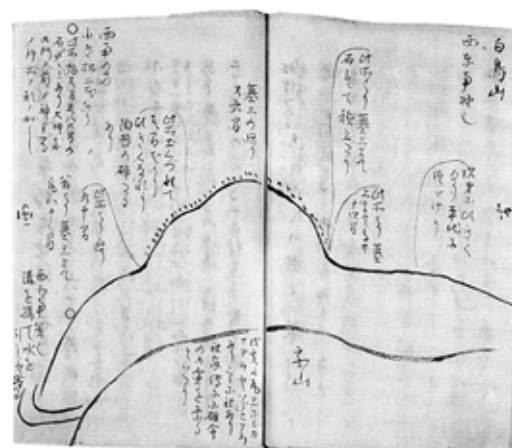
# 1. 白鳥塚古墳の概要

白鳥塚古墳群は三重県鈴鹿市加佐登町字椎山から石薬師町字北松塚に所在し、1号墳を主墳とする計7基が確認されています。1号墳は古くから「記紀」の記述に見えるヤマトタケルの墓として有力視され、タケルの白鳥伝説から白鳥塚と呼ばれてきました。本居宣長は『古事記伝』の中で触れ、高宮村（現鈴鹿市）の白鳥塚を能褒野（のぼの）墓の第一候補とし、平田篤胤もまた白鳥塚をヤマトタケルの墓としています。明治9年には当時の教部省も白鳥塚をヤマトタケルの墓として治定しましたが、明治12（1879）年10月宮内省はそれを改定し、今度は丁子塚（現亀山市能褒野王塚）を治定しました。以来亀山能褒野王塚が陵墓となり現在に至っています。

三重県最大の円墳で、鈴鹿市史によればその規模は東西径78m、南北径60m、墳丘高13mを誇り、昭和12年に三重県史跡に指定されました。今年度の発掘調査が行われるまでは、5世紀後半～6世紀の築造とされ横穴式石室の可能性も指摘されていました。ただその根拠となる遺物資料は乏しくて、隣接する加佐登神社には富岡鉄斎が明治21年頃滞在中に描いたとされる「能褒野陵并笠殿」と題する絵図・出土品を描いた巻物が存在しますが、白鳥塚1号墳出土のものとは考え難く、わずかに表採資料が数点伝わるにとどまっていた。



白鳥塚古墳（1号墳）全景（東から）



35.『能褒野古墳図』より（本居宣長記念館蔵）

『能褒野陵考』（『近世のぼの考』亀山市歴史博物館より）

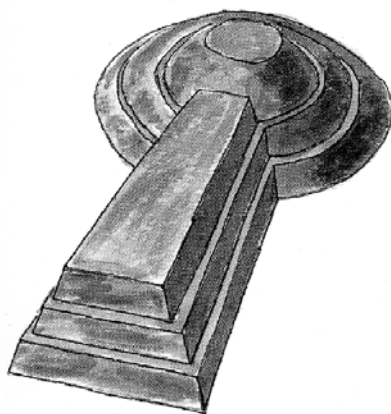
## 2. 調査概要

### (1) 昨年度（平成 16 年度）の調査経過

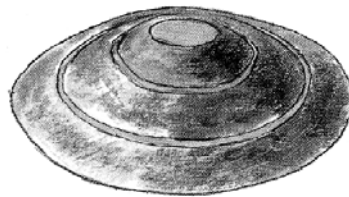
鈴鹿市考古博物館は、県史跡白鳥塚 1 号墳（石薬師町字北松塚）に隣接した平坦な尾根部分について、平成 16 年 9 月 10 日から 30 日にかけて範囲確認調査を行いました。この調査の結果、墳丘から 12m の地点で幅約 7 m の古墳の周溝を検出しました。

### (2) 今年度（平成 17 度）の調査経過

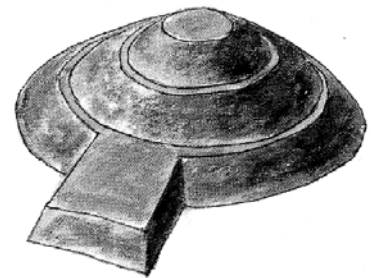
昨年度の調査経過を踏まえて、古墳規模が一回り大きくなる可能性（円墳） 墳形が変わる可能性（帆立貝式）の両面を想定しトレンチを 8 本設定し、範囲確認調査を行うこととなりました。また、併せて詳細な地形測量も実施することになりました。7 月 6 日時点の調査結果から、白鳥塚古墳（1 号墳）の形は従来考えられていた円墳ではなく、帆立貝式古墳の可能性が高くなっています。墳丘は全体には 2 段築成、部分的には 3 つの段を持つことが確認できました。この資料では、最下段を基壇、中段を 1 段目、上の段築を 2 段目と呼んでいます。



↑ 前方後円墳 上から見ると鍵穴の形、側面から見るとひょうたんの形をしている。日本独自の形で、この形がなぜできたのかはわかっていない。



↑ 円墳 6 世紀になると、各地で爆発的に古墳がつくられるようになった。山の尾根すじに数十から数百も密集した群集墳もみられる。民衆の中の有力者まで、古墳をつくるようになった。

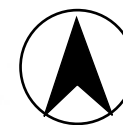


↑ 帆立貝式古墳 円墳に造り出し(台)をつけたり、前方部を短くした古墳。ほとんど古墳時代の中ごろにつくられた。ぶつうの長さの前方部をつけることを、大主にやめさせられたとも考えられている。

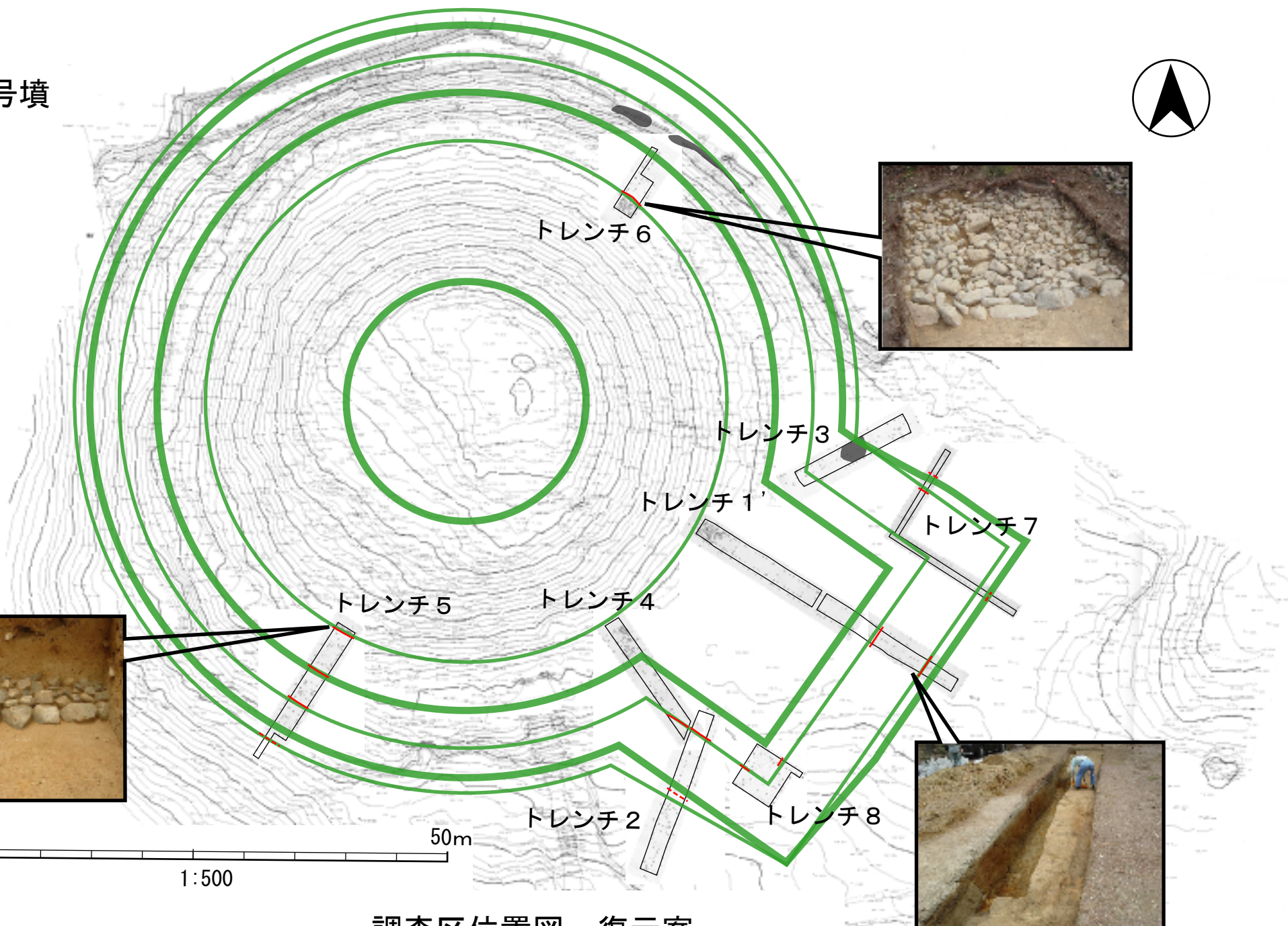
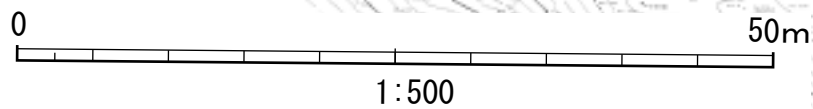
『古墳の研究』ポプラ社より

## 古墳のいろいろな形

白鳥塚1号墳



4



調査区位置図・復元案

- トレンチ 1** 墳丘の東の尾根部のトレンチです。墳丘裾から 12 m の地点で古墳周溝を検出しました。このことから古墳の形が円墳ではなく帆立貝式古墳の可能性がでてきました。また、このトレンチの県指定史跡範囲内で円筒埴輪が出土しました。この埴輪の透かし穴は半円形を呈すると見られ、5 世紀前半のものと考えられます。
- トレンチ 2** 前方部南側の墳丘の一部と考えられる盛土を断面で確認することができました。トレンチ 4 とあわせて、古墳の形が帆立貝式古墳であることを示す重要な資料で、大きな成果といえます。
- トレンチ 3** 残念ながら後年の掘削で古墳と関係のある遺構がみつかりませんでした。
- トレンチ 4** 古墳の前方部南側と後円部の接点であるくびれ部と見られる墳丘の盛土を確認しました。トレンチ 2 の結果とあわせて、古墳の形が帆立貝式であるという重要な成果を得ました。
- トレンチ 5** 今回の調査で最大の成果があったトレンチです。墳丘南側の 2 段目(最上段)の裾部で基底石(すその端に据えられる大きな石)を確認しました。また土層断面から、1 段目の段築と 1 段目と 2 段目の間のテラス部分を確認し、さらに 1 段目裾の下の土層の様子から、1 段目の基壇にあたる盛土を検出しました。このトレンチの成果から、2 段目(最上段)の後円部の径の大きさや、白鳥塚が部分的に 3 段の古墳であった可能性、テラスや盛土の様子などがわかってきました。
- トレンチ 6** トレンチ 5 に並んで成果の大きかった調査区です。墳丘北側の 2 段目(最上段)の裾部で基底石を検出しました。このトレンチの葺き石は状態がよく、その様子から区画石列も確認できました。また断面から、テラス部や 1 段目の段築の可能性のある土層を検出しました。テラス部では、原位置の可能性が高い場所(基底石から約 150cm の地点)で円筒埴輪(底

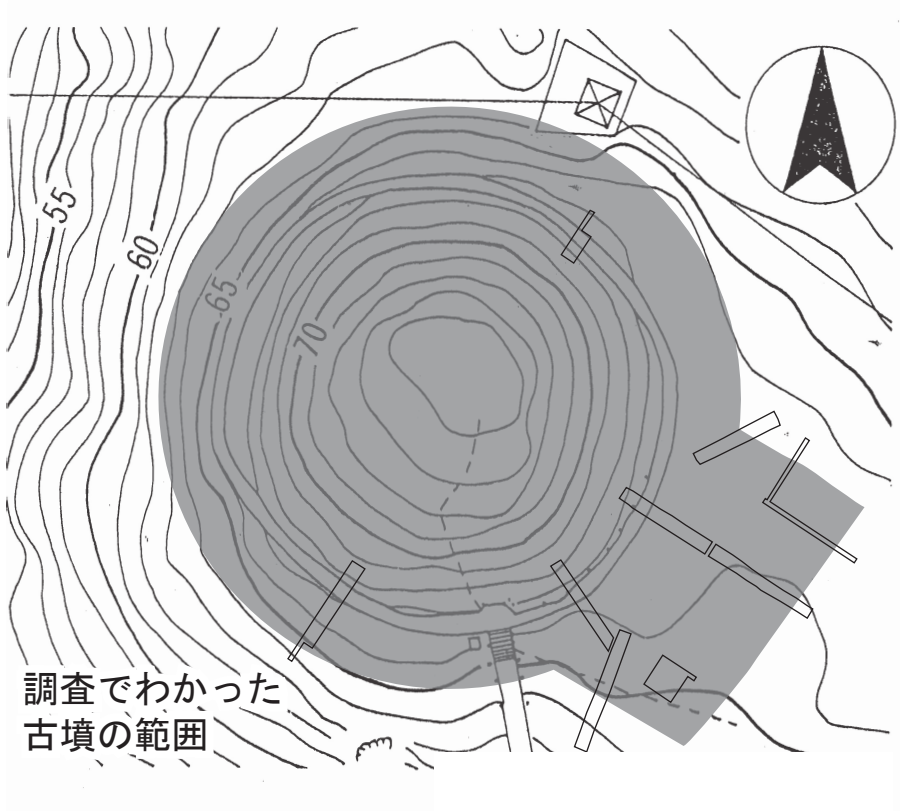
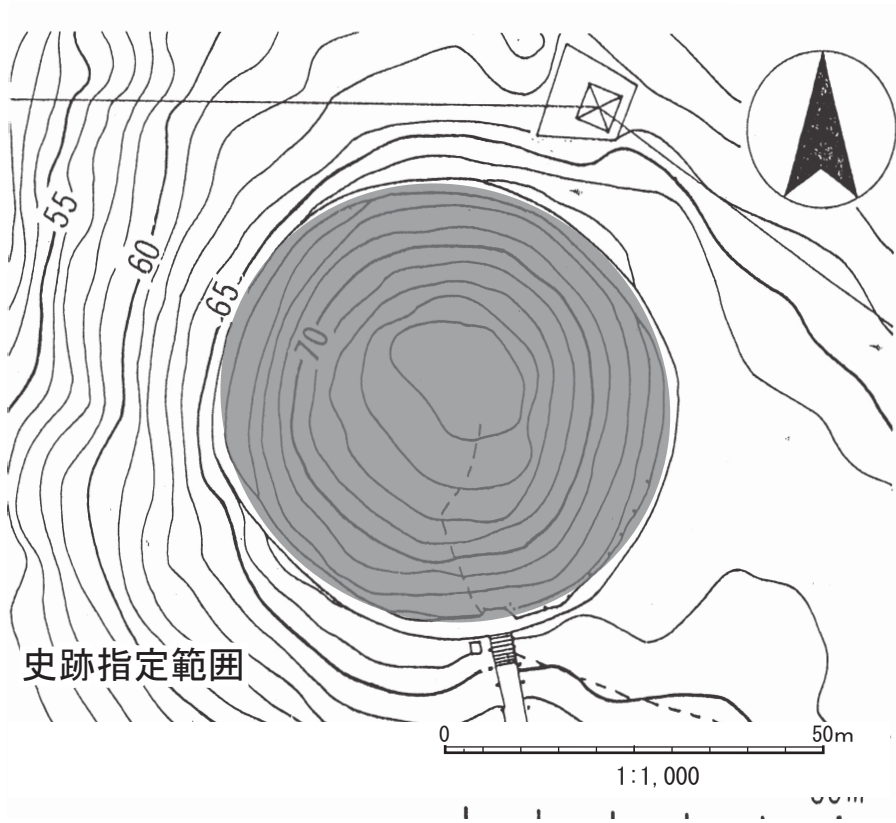
部)が出土しました。

**トレンチ 7** 前方部北側の墳丘のコーナー部分を調査しました。攪乱のため不明な部分もありますが、断面から周溝と見られる溝を検出し、前方部北側の範囲をほぼ確認することができました。

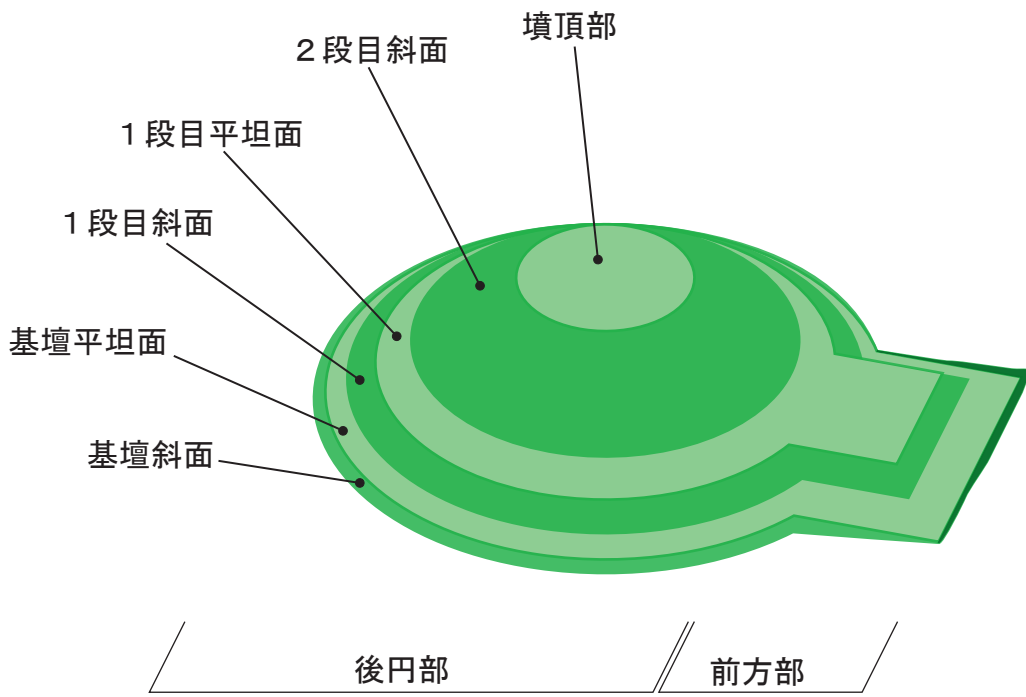
**トレンチ 8** 前方部南側の墳丘のコーナー部分を調査しました。断面での検出のためコーナーそのものは確認していませんが、ほぼ間近で前方部東端と南端を確認することができました。

**出土遺物** 主な出土遺物は円筒埴輪片です。トレンチ 1 で出土したもののなかには透かし穴が半円形のものがありました。多数は小片ですが、円筒埴輪には厚手のものと薄手のものの大きく二つのタイプがあり、共通の傾向として黒斑が見られます。また、少量ですが器財埴輪と呼ばれるものも出土しています。蓋(きぬがさ)形埴輪の立ち飾りの軸部や鏝(つば)がつく壺形埴輪の一部と見られる小片が確認されています。

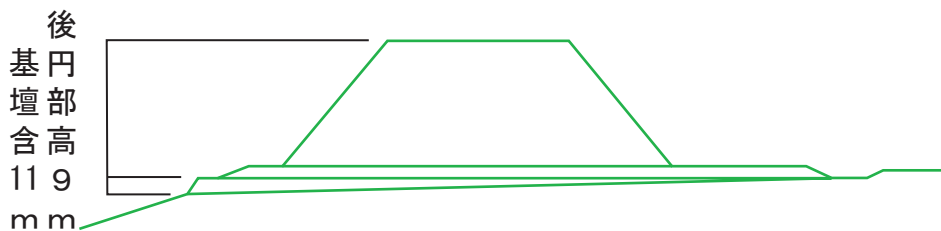
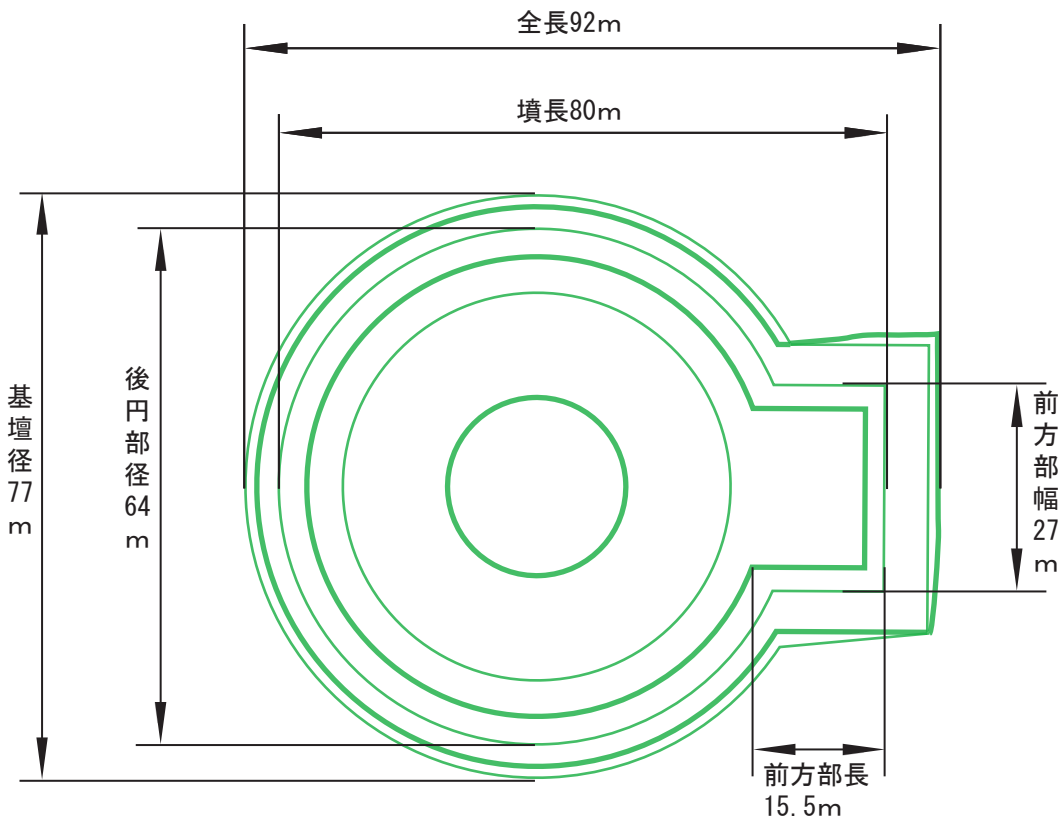
平成 17 年度の調査成果まとめ		
	従来の見解	新しくわかったこと
<b>墳形</b>	円墳(だ円)	帆立貝式古墳
<b>規模</b>	東西径 78m・南北径 60m	墳長 80m(全長 92m) 後円部:径 64m(基壇含 77m) 高さ 9m(基壇含 11m) 前方部:長さ 15.5m 幅 27m
<b>時期</b>	5 世紀後半～6 世紀	5 世紀前半
・墳丘は 2 段築成であり、段築は最下部で基壇を設けその上に築かれてたことが確認された。 ・トレンチ 5・トレンチ 6 の基底石の検出により、正確な段築最上段の規模・位置が確認できた。		





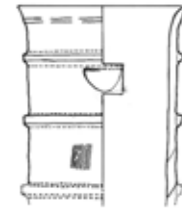
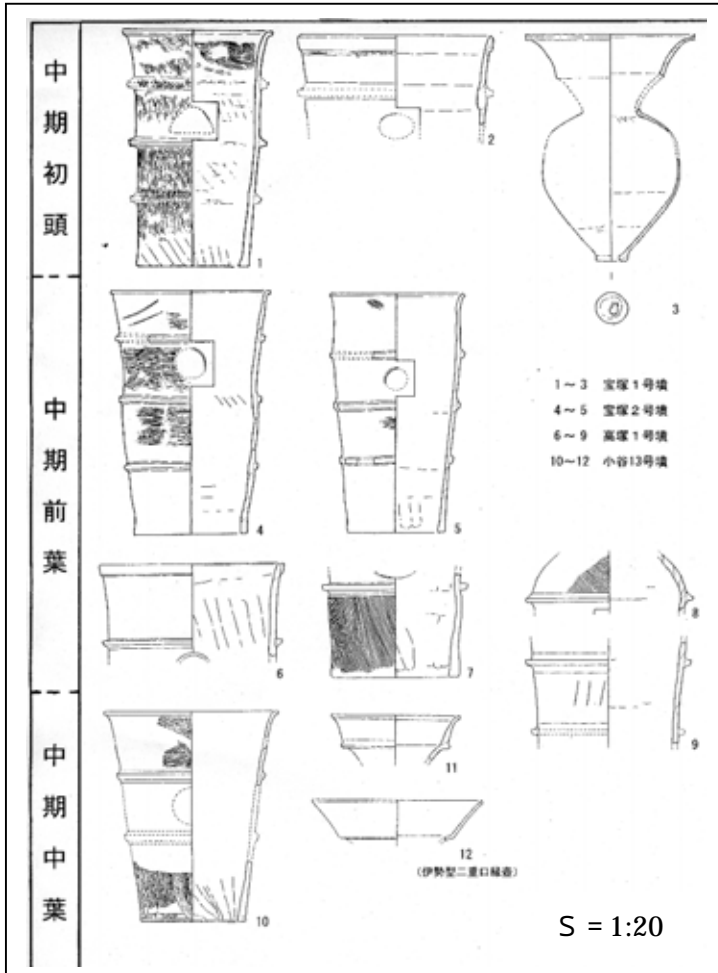


各部名称



規模

## 白鳥塚古墳の埴輪について

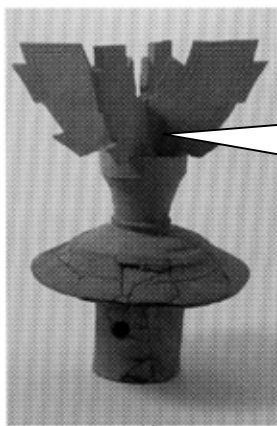


S = 1:20

### 白鳥塚古墳の円筒埴輪

トレンチ 1 から出土しました。半円形の透かし穴が確認されました。宝塚 1・2 号墳の埴輪と同じような時期（5 世紀前半）と考えられます。

三重県の円筒埴輪（中南勢出土）三重 history vol. 16 より



蓋（きぬがさ）埴輪（石山古墳三重県伊賀市）



### 白鳥塚古墳の蓋（きぬがさ）埴輪

トレンチ 5 から出土しました。たち飾りと呼ばれる部分の軸にあたります。